

霧島神宮(霧島市)

大鳥居



「日本の道 百選記念碑」





ロータリー

 [video](#)



神橋



社号標(右手前)と二の鳥居(左上)



社号標



二の鳥居

 video



突き当りの右手に三の鳥居

 video



三の鳥居の向こうに社殿が見える



神聖な空気に満ちている

 [video](#)



手前から勅使殿・拝殿・幣殿・本殿が一列に並び、傾斜を使って奥行きがある建築景観となっている



創建は6世紀というが…

霧島神宮

鹿児島県霧島市霧島田口鎮座
ににぎのみこと

御祭神 天孫瓊瓊杵尊

相殿

嫡后 木花開耶姫尊
御子 彦火出見尊

嫡后 豊玉姫尊

御孫 神武天皇尊

鶴萱草葺不合尊
御曾孫 姬尊

鶴戸神宮

当神宮は天祖天照大神の御神勅を畏み戴き
高千穂峯に天降りまして皇基を建て給ひ国土を開拓し産業を振興遊ばされた肇国の祖神をお祀りしております。

御本殿以下諸建物

平成元年国指定重要文化財
令和四年二月九日国宝指定

正徳五年(西暦一七一五年)島津第二十一代藩主吉貴公御造営寄進

主なる祭典

御田植祭 大祭 旧二月四日
例大祭 大祭 九月十九日
古例祭 中祭 旧九月十九日
小祭 十一月十日

天孫降臨記念祭
天孫降臨御神火祭

現在の社殿は江戸時代の正徳5年(1715年)に薩摩藩主・島津吉貴が寄進して造営された/拝殿、幣殿、本殿が国宝/勅使殿、登廊下は重要文化財



 video



video



国宝

霧島本殿
神宮幣殿附
拝殿二枚

霧島神宮の社殿は、溶岩の流れれた境内の傾斜地に、階段状に配置され、勅使殿から登廊下を介して段差を付けながら、拝殿、幣殿、本殿へと至る高みに昇る。

すなわち、勅使殿から本殿を見上げれば、社殿の屋根が前後に重なる莊嚴の景観をなし、そのまま背後にある高千穂峰を仰ぎみる。

この高低差の表現は、内部にあっても頭著にあらわれる。とくに拝殿から本殿に向かっては、急勾配の階段で段差を付け、本殿の向拝を、身舎から位置、高さとも距離をとつて独立した形象として扱い、天井高を変えて手換、海老虹梁で繋ぐなど、躍動感にあふれた構成をもつ。

また本殿の規模は大きく、内陣周囲や向拝を密度の高い彫刻や彩色で埋め尽くす。

幣殿、拝殿も同様で、いずれの建物も要所を丸彫彫刻や絵画で装飾し、極彩色、漆塗、朱塗で仕上げる豪華な仕様をもつ。これは、近世において発達した建築装飾技術の、集大成のひとつとして評価できる。

わけてもみどころは、本殿向拝の龍の彫刻が巻き付いた龍柱である。空間的にも社殿の要の位置にある龍柱は、左右で阿吽の形をとり、大振りで、豪快かつ屈指の流麗さを誇る。龍柱は、東アジアにおいて分布し、我が国では、鹿児島藩によって造営された社殿を中心に伝わるが、霧島神宮の龍柱は、最古かつ最良の遺構となっている。



社殿の背後には高千穂峰を仰ぎみる



傾斜地に高みに昇るように配された社殿



異色である立体彫刻された立花園の手扶



海老虹梁で繋がれた本殿外陣内部



本殿向拝の丸彫彫刻の龍柱



拝殿より極彩色の彫刻・絵画をほどこされた本殿を望む



勅使殿より登廊下を介し本殿へと急勾配を昇る

勅使殿





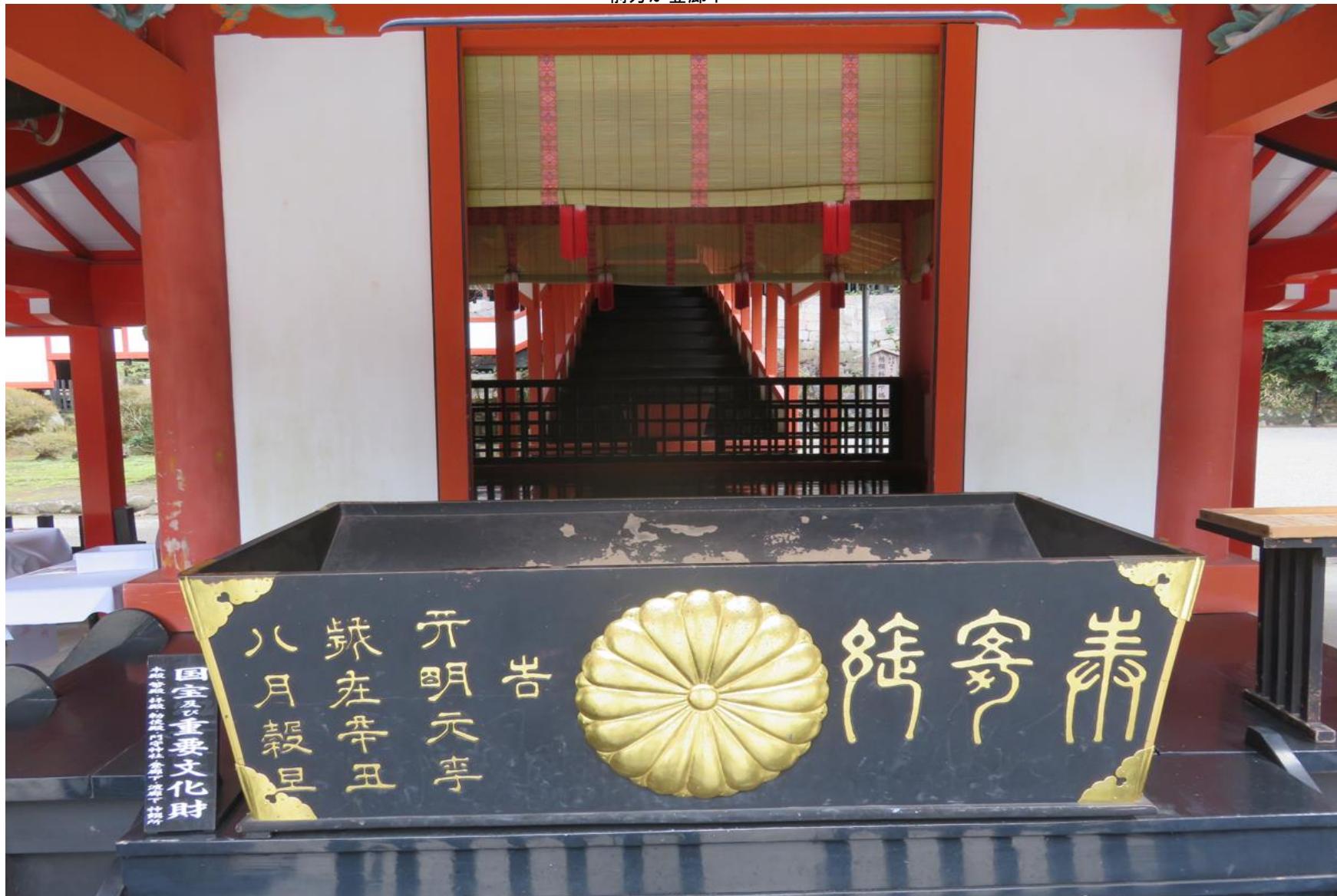


凄い彫刻だが、本殿等の国宝は更に素晴らしいようだが、残念ながら中には入れない





前方が登廊下





これが登廊下

 [video](#)



神楽殿

[video](#)





展望台から霧島連山を見たところ

 [video](#)



慶応2年(1866年)に坂本龍馬・お龍夫妻も新婚旅行で訪れたらしい



霧島東神社(西諸県郡高原町)

これは霧島東神社社殿への石段入り口の両部鳥居

 video



第10代崇神天皇の時代に創建されたと伝えられているらしいが…/高千穂峰山頂を飛地境内とし、山頂の「天之逆鉾」は当社宝として祀られている/鹿児島県の霧島神宮が「西霧島宮」と言われたのに対し、「東霧島宮」と呼ばれ繁栄したという



きりしまひがしじんじや
霧島東神社

伊邪那岐尊、伊邪那美尊を主祭神として祀り、第十代崇神天皇の代に霧島山を信仰の対象とする社として創建されたと伝わる。天暦年間（九四七～九五七）に天台宗の僧、性空上人が神社のかたわらに別当寺である錫杖院を建立し、霧島六社権現のひとつとして霧島山で神意仏心を崇める修行を行う修驗者たちの拠点となつた。当時は霧島山大権現東御在所之宮と呼ばれ、霧島修験の興隆に伴い社寺ともに栄えた。

度重なる霧島山の噴火により復興造営を重ねており、現在の社殿は享保十二年（一七二二）の造営により、幾度かの改修を経て今に至る。殿内奥には雌雄一対の龍柱が祀られ、正面には寛文六年（一六六六）薩摩藩主島津光久公寄進の「東霧島坐（霧島の東に坐す）」の扁額が納められている。

例大祭 十一月八日・九日

あまのさかほこ
天之逆鉾

高千穂峰（一五七四m）の山頂にあり、霧島東神社の社宝として祀られている。伊邪那岐尊、伊邪那美尊が高天原から鉾を差しあろし、かき混ぜて作った国土に、逆さに突き立てたものと伝えられる。また、天孫降臨の際に瓊々杵尊が天照大御神から授かつた鉾ともいう。実際に祀られた時期は明確ではないが、霧島山の修験者たちが神話にならつて祀つたとされ、少なくとも江戸時代にはその存在は広く知られていた。霧島山に対する信仰の対象であるとともに戦前までは雨乞いの神ともされ、鉾の前で祭儀を行つていたという。

霧島連山の靈峰・高千穂峰の東側の山腹、九頭を持つ龍神伝説のある御池(みいけ)を見下ろしたところ

 [video](#)



参道を登って行く



参道の石段を登り切ると、立派な神門が建てられている





前方に社殿が見える

 video



社紋は仏教の車輪であるが、霧島東神社が錫杖院(現在は廃院となった寺)と敷地を
共有していたことの名残りらしい



これが霧島東神社社殿/権現造/享保12年(1722年)の造営





向拝には寛文6年(1666年)、薩摩藩主・島津光久寄進の「東霧島坐」の扁額が懸かっている



左手から見たところ



そこで、左奥を見たところ/本殿の覆屋と思われるが屋根は立派で、側面上部はガラス張り

[\[動\] video](#)



右手で、拝殿(左)と幣殿・本殿(右)を見たところ

[\[動\] video](#)



拝殿の向拝側面



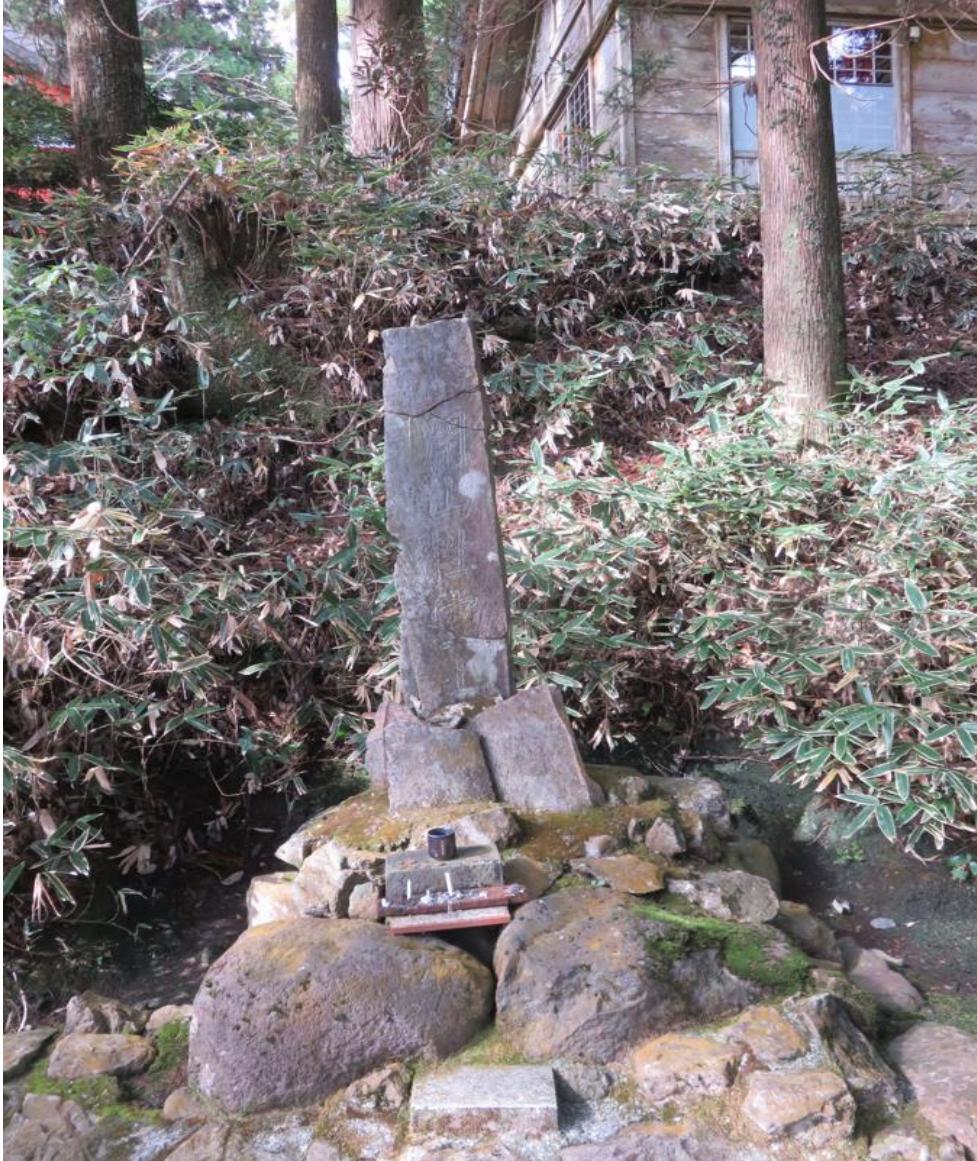
本殿の屋根



忍穂井(おしほい)/神龍の泉ともいわれる龍神の安息地



霧島山信仰の神社を霧島六社権現として、体系付け整備した性空(じょうくう)上人の開山碑



史跡錫杖院墓地

平成十三年十二月十三日指定

錫杖院は、正式名を霧島山大權現東光坊花林寺錫杖院と称された、霧島山東御在所両所權現社（現在の霧島東神社）の別當寺である。

霧島六所權現は、十世紀半ば、比叡山の性空上人により、霧島山の周囲に寺社が配置された。錫杖院もその一つで、東御在所權現社と共に栄えたが、文暦元年（一二三四）の霧島山の大噴火により焼失した。その後、文明十八年（一四六八）薩摩国の島津忠昌が真言僧を遣わして復興させ、一時期日向国の伊東氏に支配された他是、島津氏の統治下に入った。高千穂峰や御池も錫杖院の境内とされ、峰に登る際は、必ず当寺に参詣するなど、社寺共に繁栄していたが、慶應四年（一八六八）四月、廃寺となつた。

この墓地には、錫杖院代々の住持が眠り、その墓石に自然石を用いているのが特徴である。

その他、錫杖院中興の祖である真言僧円政の墓と思われる五輪塔や、伊東方の修驗者として当地を支配した池郷民部の墓等がある。

霧島東神社と敷地を共有していた錫杖院の説明板

平成十四年三月三十一日

高原町教育委員会

祓所



ここは「行者口」とも呼ばれている旧登山道の入口/山伏達はここから山頂を目指したらしい



霧島神宮古宮址(高千穂河原)(霧島市)

霧島神宮古宮址は、天暦年間(947-957)に性空上人が再興奉遷し、文暦元年(1234)の大噴火まで鎮座していた霧島神社の地で、現在は霧島神宮の飛び地境内になっている



「霧島錦江湾国立公園 高千穂河原」と刻まれた石碑



あまのさかほこ

左手の高千穂峰の頂上に「天之逆鉾」が刺さっているのだが…/右手の火常峰(御鉢の旧名)との間の「脊門丘(せとお)」に社殿(本宮)が建立されていたらしい



古宮址へ向かう



古宮址 天孫降臨神籬斎場

日本で最も古い書物である古事記・日本書紀に霧島神宮の御祭神瓊瓊杵尊が「襲の高千穂の峯に天降ります」と記してあるように、高千穂峰は神様の宿る山として古へより、多くの人々の崇敬を集めています。

ここ高千穂河原は文暦元年（一二三四年）まで霧島神宮のあつた処です。

霧島山の大噴火により社殿を田口にお移ししておりますが、高千穂河原は神籬斎場として現在も祭祀が継続されており、特に十一月十日には天孫降臨御神火祭が峰の頂上と斎場で斎行されております。

この鳥居より五百米先ですご参拝下さい
国立公園内ですので環境美化と

動植物保護に御協力願います

霧島神宮

高千穂河原にある霧島神宮の跡地が古宮址と呼ばれ、現在は天孫降臨神籬斎場があり、霧島神宮による祭事が行われるようだ

前方のエリアが古宮址/右手に標柱が立っている

 [video](#)



「天孫降臨神籬斎場」とある





霧島神宮元宮

788年の噴火で焼失

Ruins of the first Kirishima Jingu Shrine destroyed by 788 eruption

霧島神宮元宮



初代の霧島神宮は元々、高千穂峰と御鉢火山の鞍部にあったとされていますが、788年の御鉢の噴火で焼失しました。

現在、その場所には神社の跡を示す鳥居と石碑が建てられています。

霧島神宮古宮址

1235年の噴火で焼失

Ruins of the second Kirishima Jingu Shrine destroyed by 1235 eruption

この看板の奥にある祭壇は、2代目の霧島神宮の社殿がかつてここに存在したこと今に伝えています。ここにあった社殿も1235年の噴火で再び焼失しました。その後、現在の霧島中学校付近に仮の宮が置かれた後、霧島神宮は1484年になって現在の場所に移されたのです（現在の社殿は1715年に再建されたものです）。

登山道
Mountain trail

現在地

Current place

高千穂河原
ビジターセンター
Takachihogawara visitor center

御鉢火山

Ohachi volcano

高千穂峰

Takachihonomine volcano

霧島ジオパーク Kirishima Japanese Geopark 御鉢火山と霧島神宮の歴史 が私たちに伝えるもの

Message from the historical relationship between
the Ohachi volcano and the Kirishima Jingu Shrine

霧島の山岳信仰の象徴のひとつである霧島神宮は、御鉢火山の噴火によってこれまでに何度も焼失と移転を繰り返してきました。では、なぜ霧島神宮は同じ場所に再建されなかったのでしょうか？もしそうしてしまえば再び噴火災害に遭うリスクが高いということを当時の人々は見越していたのかもしれません。かつての霧島神宮の跡は、霧島の麓で生きる人々が火山とどう向き合ってきたかを今に伝える大切な場所でもあります。

The Kirishima Jingu Shrine, one of the symbols of the mountain faith in Kirishima, was repeatedly burned down and relocated due to the eruptions of Mt. Ohachi. So why wasn't the current Kirishima Jingu Shrine rebuilt at the same location? Perhaps the people in those days had anticipated that the risk from disastrous eruptions would be too high if they did so. The ruins of the old Kirishima Jingu Shrine around Mt. Ohachi are important places that tell us how people that lived at the foot of the Kirishima Mountain Range faced the volcano.

霧島市・鹿児島県

左手が高千穂峰/右手は火常峰(御鉢の旧名)

[video](#)



正面が天孫降臨神籬斎場

 [video](#)



アップで見たところ

[video](#)



右手から見たところ

 [video](#)



背後から見たところ



こんなものもあった



ここが登山道入口で、火常峰(御鉢の旧名)～高千穂峰へ至る



さて、ここは併設されている高千穂河原ビジターセンター



様々な展示がされていた

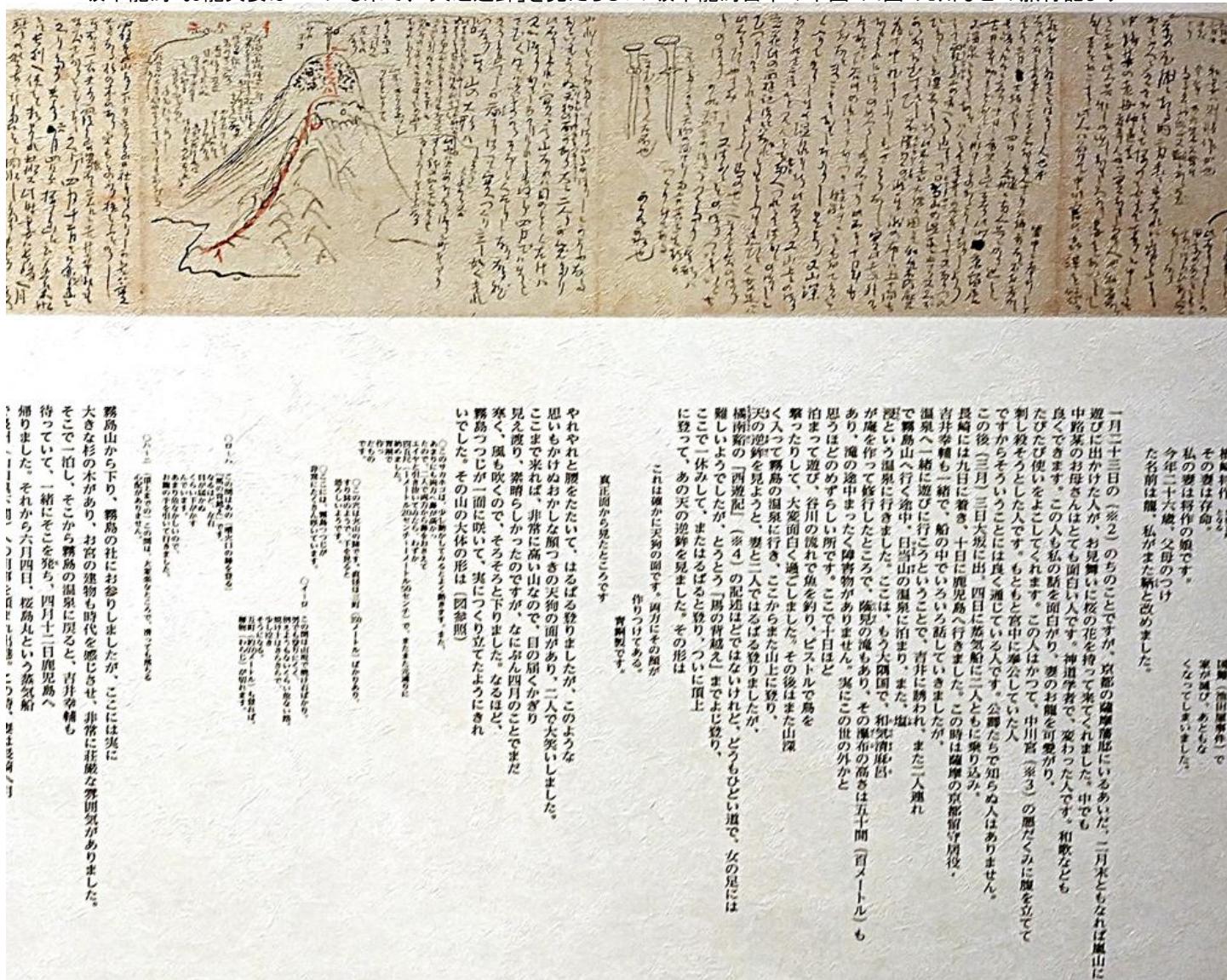
 video



霧島六社権現(霧島神宮(霧島市)、霧島東神社・狭野神社(高原町)、東霧島神社(都城市)、霧島岑神社・夷守神社(小林市))の位置



坂本龍馬・お龍夫妻はここにも来て、「天之逆鉾」を見たらしい／坂本龍馬自筆の中国・四国・九州などの旅行記より



こちらはその近くにある高千穂河原パークサービスセンター兼休憩所



火常峰(御鉢の旧名)～高千穂峰のジオラマ他が展示されていた



